

24
25

 U-NEXT

 Premier
League



REPORT

サッカー試合解説レポート

MATCH

U-NEXT プレミアリーグ 【30】 0404_チェルシーVSトッテナム・ホットスパー

DATE

2025/04/04

NAME

田中裕介



試合終了



トツテナム

エンソ・フェルナンデス 50'



サブメンバー		
4	トシン・アダラビオヨ ↑	↑ マティス・テル 11
11	ノニ・マドゥエケ ↑	↑ 🟡 ブレナン・ジョンソン 22
22	キアナン・デューズバリ＝... ↑	↑ 🟡 ペドロ・ポロ 23
24	リース・ジェイムズ ↑	↑ 🟡 パペ・マタル・サー 29
5	ブノワ・バディアシル	イヴ・ビスマ 8
12	フィリップ・ヨルゲンセン	アーチャー・グレイ 14
18	クリストファー・エンクンク	アントニーン・キンスキー 31
32	タイリーク・ジョージ	ベン・デイビス 33
34	ジョシュ・アチャンボン	マイキー・ムーア 47

	チーム別データ	
11	シュート	8
5	枠内シュート	2
51%	ボール支配率	49%
434	パス	433
85%	パス成功率	87%
7	ファウル	16
5	イエローカード	5
0	レッドカード	0
5	オフサイド	5
4	コーナーキック	6

MATCH REPORT

SCORE 1-0 (1st 0-0 2nd 1-0)

TOP3 point

- ・両チームGKの好セーブが光る締まった試合
- ・完成度の高さとゲームプランで上回ったチェルシー
- ・ピッチ上の『ハンター』カイセド

Trivia of this match

- ・チェルシーは今シーズン30歳以上の選手を起用してない
- ・チェルシーのデューズバリー=ホールの尊敬する選手はスコールズ
- ・スパーズのファンデフェンの父マルセルは潜入捜査官で、オランダ最高レベルの犯罪を捜査していた

【チェルシーvsスパーズ試合レポートまとめ】

(チェルシーの戦い方と試合展開)

- 前半：・怪我人の復帰でベストメンバーに近い陣容。1トップに**ジャクソン**が入り裏抜けやポストプレーの安定感など流石のプレー。（開始1分で裏抜けランニングからいきなり決定機演出）
- ・ビルドアップでは右SBギュストが中に入りカイセドと横並びの中盤を形成。右のIHエンソが近い距離感での配置で相手の**プレス**の**出口の役割**を果たす。
 - ・立ち上がりは左サイドを攻めた。パーマーの絡みなどで厚みを作る。サンチョがいい形で仕掛けるも最後の局面ではクオリティを欠いたがチームとしてボールの動かし方は良かった。
 - ・サイドチェンジのロングボールも活用。ウイングに時間を作りそこからクロス。**クロスに対しての中**の**人数の掛け方**も迫力を感じた。
- 後半：・パーマーの左クロスからフリーで走り込んだエンソのヘディングで先制。前半から繰り返していたクロスが実る形。
- ・FKのこぼれからDMFカイセドの幻のボレーシュートあり（コルウィルのファウルでVAR判定の末取り消し）
 - ・試合を通して**カイセド**のボールハント能力・防波堤としての働きは目を見張るものがあった。まさにピッチ上の『**ハンター**』だった。
 - ・先制後はリスクをかけずにゲームプランを遂行していく形。何度か危ない場面もGKサンチェスを中心に凌ぐ。
 - ・クロージングの時間に投入したデューズバリー=ホールとマドゥエケもタスクをしっかりとこなし5-4-1で構える形を崩さず見事**クリーンシート**を達成。

(スパーズの戦い方と試合展開)

- 前半：・序盤からチェルシーに押し込まれる展開。守備ではプレスをかけるがあまり**ハマっていない**印象。特にエンソの所は浮いていた。
- ・奪ってからの速攻から活路を見出したいがなかなか意図した形は作れない（前半シュート0）
 - ・決定的なピンチが何度かあったがGK**ヴィカーリオ**の好セーブで難なく防ぐ。
 - ・クロスからピンチを招くシーンがあった。中の**マークの受け渡し**がうまくいってなかった。2列目の選手の飛び込みに対してSBがみるか中盤がみるかCBが受け取るかなどの部分。
- 後半：・形は変えずに高い位置からのプレス→奪って速い攻撃を狙う。
- ・クロスから失点。中のマークが曖昧でエンソにフリーで合わせられてしまう。
 - ・前半ほとんど参加できなかった右WGオドベールを使い出したが、相手左SBククレジャにうまく対応されてしまう。
 - ・選手交代で流れを変えようと試みたが最後まで得点は奪えず。後半は**ランニングが増えて**前半よりもチャンスの数は多かった。

(総評)

両チーム怪我人が復帰した試合だったがチェルシーの総合力が一枚上手だった。ボールの動かし方、球際の迫力、クロスの人数の掛け方はチームの積み上げの賜物。特にカイセドとジャクソンは欠かせないと感じた。

途中交代の選手の戦術理解度とテンションの高さも好印象。スパーズはサイドを起点にした際にダイアゴナルのパスが少ないため相手CBのギャップが生まれにくい。

ソランキにシンプルに当ててそこに対してランニングで追い越すダイナミックな攻撃が見たい。後半はポケットへのランニングが明確に増えてそれにより相手守備陣形のズレが生まれた。